ASSOCIATION OF ISHIKAWA ARCHITECT'S
New Communication Magazine,Harmony

Harmony

能登半島地震
レポート
No.4

令和6年 能登半島地震体験レポート

竹ノコウ本舗－構造設計室　竹田 法男［R6.12月寄稿］

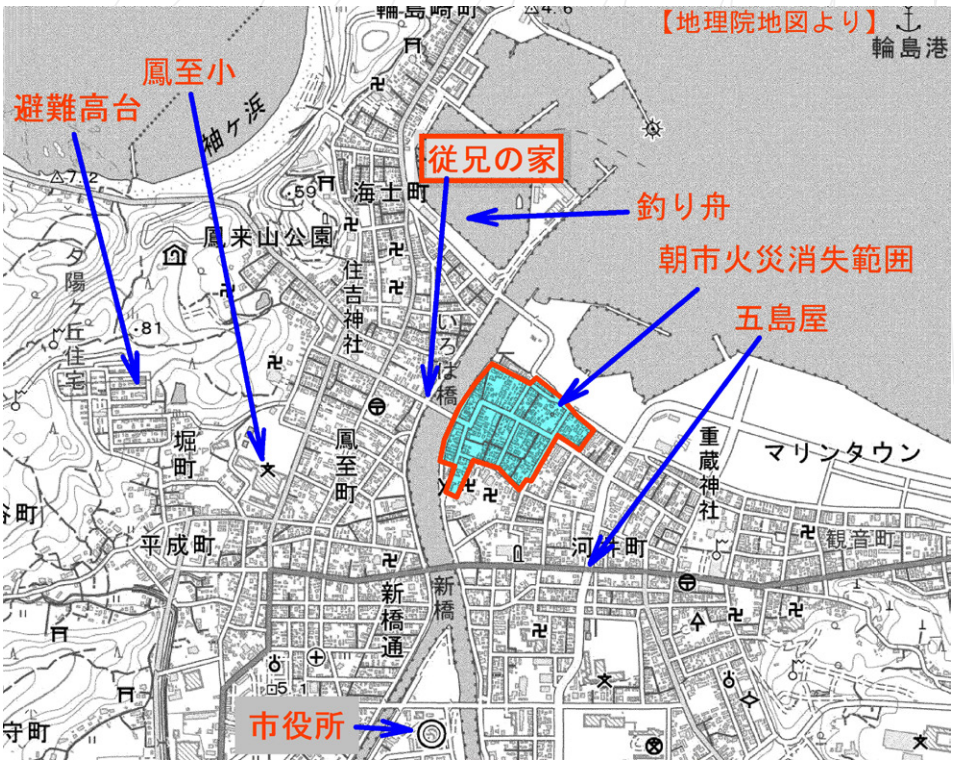
“大好きな輪島で”　１月１日輪島にて被災

親から受け継いだ家が輪島（千枚田の近く）にあるので幼少期から年に何度か行っており、元日は日帰り予定でした。ねぶた温泉に入り朝市横の従兄の家にお邪魔し 16 時になり“さあ帰ろう”と言った瞬間、１度目の揺れがありました。続く本震はさらに大きな揺れで、安全が保証された地震体験車と違い不安でしか無かったです。

そのあとすぐさま“津波が来るから避難せねば”といい、津波を想定した避難訓練を受けている地元の方たちは、海抜４０mの高台へ行くにつれどんどん大きな群衆となりながらも避難が早かったことに驚きました。

17 時半頃か朝市の火の手が高台においても見え始め、頻繁にプロパンガスの爆発音とドクロ雲が発生し徐々に火事が大きくなり、また、従兄の家は輪島港から３００mほどだったので、車は津波か燃えたか諦めておりました。それより人命が最優先で助け合いの避難でした。崩れた瓦礫の下に埋もれた人の救助応援もしました。洋服と毛布お借りした方が分からず、お礼できずにおります。

寒い中、高台には 22 時過ぎまで道路上で過ごし大津波警報が解除されないまま徐々に避難所への移動が始まりました。高台の下にある鳳至小学校へ。体育館は人で溢れかえっており、トイレも既に大変な状態でした。



幸い車は無事だったので、狭い道路、崩れて通れない箇所が多く瓦礫の上を走って学校のグラウンドで車中泊しました。

夜が明けるまで空は火事のオレンジ色で一睡もできず、大好きな輪島において現実とは思えず悪夢をみているようでした。河原田川のいろは橋に消防のホースが残されていましたが、消火活動出来なかったというほど川に水が無かったです。

翌朝６時台、朝市は未だ火がくすぶって熱かったなか、行ける範囲で朝市と鳳至の写真を撮りつつ構造設計関与した建物の無事も確認できました。

道や橋が寸断されて通れない中、帰るルートを歩いて探っている時に倒壊した五島屋ビルを偶然に見たときの衝撃は忘れません。写真は１月２日の８時ごろであまり人がいませんでした。

帰りは門前方向へ向かうも早々に断念し折り返したことも含め金沢へ10 時間かかりました。途中夕方に、店内バタバタでも皆のために営業している七尾市中島町のゲンキーの明かりがみえた時、ここで涙が出てきました。

従兄の家、木造２階建は新築半年だったので建物大丈夫でした。私の構造設計建物とともに現行基準建物の安全性を身をもって体感し構造設計の重要性を改めて実感した次第です。

従兄と一緒だったことで知り合いが多く心強かったです。とても不思議だったことを最後に１つ。従兄は輪島で釣り舟を出しています。護岸からロープで通常縛っているのは津波時に解かないと転覆するのでとても心配していて、さらに正月だからと一升瓶２本の栓を空けて置いていたものが翌日でも瓶は倒れず１滴もこぼれ無かったこと。波が一旦引いて、何倍もの波が戻ってくるという津波の動きが無いまま先に輪島港も数メートル隆起したことで津波を回避したと思うと納得します。

いま現在、親からの家は公費解体待ちです。写真は蔵です。私は無事に帰れたのでそれより被災地で生活されている方々や他の土地へ行かざるを得なかった方々の思いは想像を絶します。能登半島の復興が早く進みますよう建築関係者としての思いも強くあります。

石川県建築士事務所協会会報

『Harmony』2024年能登半島レポートNo.4　令和6年12月発行
発行者／(一社)石川県建築士事務所協会　　編集者／広報委員会
TEL(076)244-5152　FAX(076)244-8472
〒921-8036　金沢市弥生2丁目1番23号(石川県建設総合センター5階)
E-mail:ishikyokai@ishi-kjk.or.jp　URL:http://www.ishi-kjk.com